

総合板金加工工業の葵製作所（本社・東京都八王子市石川町、社長・長谷川薫氏）は、個人向けの金属加工製品事業に進出する。従来の産業向けに続く2本目の柱として、消費者のニーズに沿った金属製品の開発に着手。「LIFE IS METAL」を合言葉に、10月13日から15日まで東京ビッグサイトで開催する「第92回東京インターナショナル・ギフト・ショー秋2021」で新たな一歩を踏み出す。

板金加工の葵製作所



長谷川社長

このほど「Aoi Products（アーンアップを想定。第1オイプロダクト）事業として、ダイス型ペ業」を立ち上げ、産業スタンドやバインダ向けの「インダストリー、スマホスタンド、

「事業」とともに展開する。金属が本来もつ硬質性や耐久性、重厚感に加え、表面処理加工による光沢や色彩にデザイン性を掛け合わせた製品ライ

個人向け金属加工製品事業に進出

ステーショナリーや整理整頓ツールなど、金属ならではの素材感と消費者が求める機能的価値に着眼



生活空間に彩り、SDGs推進に寄与

メガネスタンド、ドリで進めている。同社は1971年（昭46）の創業以来、両、各種製造装置、半導体など幅広い需要分野で「切る、貼る、曲り企業として次の半世紀に向けた成長を図る。鉄やステンレス、アルミなどの金属製品を提供してきた。

を培い、得意とする溶接技術とともに高品質な製品の供給に徹してきた。近年は情報発信の機会が増え、ホームページなどを通じて「産業向け以外の受注も伸びている」（長谷川社長）。展示会などで会社の口をのぞいた自社製のベルティなどを配布時に顧客から注文を受けると、これまででも新しい製品を提供する機会が増え、今年4月に創業50周年を迎え、モノづくりに、将来的な「B to C」の事業展開を念頭に、「B to B」の延長線上で消費者を志向する新

必要性を全社で共有。若手を中心とするプロジェクトチームが主導し、新たなマーケットに照準を合わせて、金属ならではの素材感やそれらを使った製品に消費者が求める機能的な価値に着眼した。身の回りのアイテムを中心に匠の技を駆使して両者の良さを生かした製品を提供する。10月の出展に際しては、サンプルの写真を載せたパンフレットを作成する。「Aoi Products Life Innovation」を標榜し、ブースを訪れる来場者の声を踏まえ、消費者に寄り添った商品、サービスの在り方を模索していく。

（中野 裕介）

